

令和7年度 後期 ビジネス・キャリア検定試験

ロジスティクス分野

2級 ロジスティクス管理

試験問題

(14 ページ)

1. 試験時間 110分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、JIS等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年11月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となりますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机の上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題文中、次の法令名は略称で記載されています。

- ・ 使用済自動車の再資源化等に関する法律 → 自動車リサイクル法
- ・ 自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法 → 自動車NO_x・PM法
- ・ エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律 → 省エネルギー法
- ・ 資源の有効な利用の促進に関する法律 → リサイクル法
- ・ 物資の流通の効率化に関する法律 → 物流効率化法
- ・ 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律 → 独占禁止法

問題1 ロジスティクスのネットワークに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 商流ネットワークは、発注者の店舗や物流センターと受注者の工場や倉庫を結ぶものである。
- イ. 企業間の物流ネットワークとは、受発注を行う企業の本社同士を結ぶ物流ネットワークのことである。
- ウ. 地域間の物流ネットワークとは、異なる国に立地する企業との間で結ぶ国際物流ネットワークのことである。
- エ. 施設間の物流ネットワークとは、物流ネットワークの構成要素であるリンクとモードのことである。
- オ. 輸送ネットワークとは、施設間を結ぶ輸送手段に着目したネットワークである。

問題2 企業経営におけるロジスティクス管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 顧客ニーズへの俊敏な対応、在庫アベイラビリティの向上、リードタイムなどの優位性によって顧客満足度を向上させることができる。
- イ. グローバルなロジスティクス・ネットワークでは、スループットタイムの最小化を図ることを最優先にする。
- ウ. 輸送や保管などの単一の物流機能のコスト低減だけでなく、ロジスティクスの効率化を図ることが重要である。
- エ. 高級感や安全性、上品なイメージなどとともに、企業の社会的責任の遂行と地球環境への配慮によって、企業のブランド力を高めることができる。
- オ. 資産の有効活用による経営効率化は、顧客サービスの向上とトレードオフの関係になることもあるため、慎重な検討が必要である。

問題3 ロジスティクス管理サイクルに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. P D C Aの管理サイクルを回す際、計画（P）は、実行可能性よりも高い目標を優先して策定しなければならない。
- イ. 実行（D）段階では、途中経過について、できる限り数値等を用いて具体的に記録する。
- ウ. ロジスティクス管理の階層は、上位から戦略管理、運営管理、作業管理の順で構成されるため、管理サイクルを回すには上下の階層間の指示と報告が必要である。
- エ. 評価（C）段階では、計画に対する実行結果を客観的に評価する。
- オ. 改善（A）段階では、目標を見据えて継続的に改善策を検討し、計画内容を見直していく。

問題4 物流子会社に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 事業規模の大きい物流子会社では、3 P L事業に進出する会社も少なくない。
- イ. 物流子会社が成長するには、親会社あるいはグループ企業以外の顧客を獲得していく必要がある。
- ウ. 近年では、吸収合併により、再度、親会社に統合する事例が増えてきている。
- エ. 親会社の中には、高度なノウハウを持つ物流子会社に対して、親会社以外の物流業務の受注を期待している会社もある。
- オ. 荷主企業が物流部門を独立させて物流子会社を設立する目的の一つに、物流コスト意識を明確に認識させることがある。

問題5 環境資源問題に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 国際社会全体で温暖化対策を着実に進めるため、進捗状況を確認するためのグローバル・ストックテイクが定められている。
- イ. 拡大生産者責任とは、製品の生産者などが、製品のライフサイクル全体について、一定の責任を負うべきであるという考え方である。
- ウ. G H Gプロトコルにおいて、サプライチェーン排出量は、Scope 1、Scope 2、Scope 3に区分されている。
- エ. 自動車リサイクル法によって、所有者は廃車時に引取業者に自動車を引き渡すこととリサイクル料金負担が義務付けられている。
- オ. 日本政府は2021年に、2030年に向けた日本の温暖化ガスの排出削減目標を2013年度比で26%と表明した。

問題6 物流と環境問題に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 近年、貨物輸送部門のCO₂排出量は、京都議定書の基準年の1990年度に比べて減少している。
- イ. 商品を輸送するときに、貨物鉄道を一定割合以上利用している場合、「エコレールマーク」の認定を受けることができる。
- ウ. 一部の地方自治体では、自動車NO_x・PM法で定める国の環境基準より厳しい基準の独自の運行規制を定めている。
- エ. 省エネルギー法で、「準荷主」と位置付けられた荷受け側の事業者は、省エネルギーへの協力を義務付けられている。
- オ. 省エネルギー法では、一定規模以上の事業者は、特定事業者として中長期計画の策定と結果報告が義務付けられている。

問題7 リサイクル法に関する記述として誤っているものは、次のうちどれか。

- ア. リサイクル法の目的は、資源使用の合理化、再生資源の利用による循環型経済システムの構築である。
- イ. リサイクル法では、事業者による製品の回収・再利用の促進や省資源化・長寿命化設計による廃棄物の発生抑制が規定されている。
- ウ. リサイクル法では、消費者の責務として、製品の長期間使用、分別回収への協力に加えて、石油資源使用の合理化の見地から宅配便の再配達抑制が示されている。
- エ. リサイクル法では、指定された業種の事業者には3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取組を求めている。
- オ. リサイクル法では、缶、PETボトル、容器包装などの製品について、分別回収の識別表示が求められている。

問題8 物流分野における労働力不足対策としての外国人労働力に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 事業者は、外国人を雇用するときは、厚生労働省に報告しなければならない。
- イ. 内航海運にも、外国人船員が増えている。
- ウ. 特定技能の外国人は、トラックドライバーに採用することができる。
- エ. 外国人留学生は、一定の条件下で物流センター業務に採用することができる。
- オ. 同じ職種・業務であれば、外国人は日本人と同一の賃金による処遇が求められる。

問題9 我が国の物流政策に関する記述として適切なものは、次のうちどれか

- ア. 流通業務効率化計画の認定対象であるトラック予約受付システム導入の主な目的は、環境対策である。
- イ. 鉄道と内航（フェリー・RORO船）の輸送量・輸送分担率は、今後10年間で3倍に増やすことを目標に、モーダルシフトが推進されている。
- ウ. 国際バルク戦略港湾政策として、港湾情報システムCyber Portの導入が推進されている。
- エ. 中小零細な企業が多い貨物自動車運送業のために、宅配便運賃にも「標準的な運賃」が告示されている。
- オ. トラック運送の効率化のため、高速自動車国道における大型貨物車の速度規制の緩和やトレーラの利用拡大策が講じられている。

問題10 海外の物流政策や動向に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. IMO（国際海事機関）による船舶燃料の硫黄分の排出規制により、海上コンテナ運賃が長期的には引き上げられる可能性がある。
- イ. ITを活用したトラックの求車求貨システムが、米国や中国では普及している。
- ウ. イギリスのEU離脱により、国境での通関が必要となり、トータル輸送時間の増加が懸念されている。
- エ. 特恵関税を享受するための原産地証明には、FTA（自由貿易協定）の相手国・地域によっては輸出入者の自己申告が認められている。
- オ. 中国、韓国、台湾では、我が国と同じ1100mm×1100mmサイズのパレットが多く使用されている。

問題11 リスクマネジメントに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. リスクマネジメントとは、企業内外に存在するあらゆるリスクを管理するための活動である。
- イ. 内部統制とは、リスクマネジメントのうち、企業内部のリスクを対象とするマネジメントである。
- ウ. 内部統制の目的は、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守、資産の保全の4つである。
- エ. 会社法では、資本金5億円以上もしくは負債の合計額が100億円以上の取締役会設置会社に内部統制の体制整備を義務付けている。
- オ. 金融商品取引法では、全ての上場会社に内部統制報告書と有価証券報告書の提出を義務付けている。

問題12 納期遵守率が低い場合の原因の特定と対応に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 受注締め時間遵守率が低い場合には、原因の所在は受注、出荷、輸送など多岐にわたる。
- イ. 荷揃え締め時間が守られているにも関わらず、納期遵守率が低い場合には、輸送工程に原因があると考えられる。
- ウ. 受注締め時間が守られているにも関わらず、荷揃え締め時間が守られていない場合には、センター内作業工程に原因があると考えられる。
- エ. 輸送工程に問題があると特定された場合には、ドライバーが輸送経路を誤った又はそもそもの配送・配車計画が誤っていた等の原因が考えられる。
- オ. センター内作業工程に原因があると特定された場合には、センター内の個々の作業の手順やそれに要する時間を調査し、その改善を行う必要がある。

問題13 ロジスティクス監査に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ロジスティクス監査は、その企業の監査役が行う。
- イ. ロジスティクス監査には、ロジスティクスに関する業務の効率、コスト及び有効性の検証が含まれる。
- ウ. 在庫の有効性に関しては財務部門の内部監査対象のため、ロジスティクス監査の対象外である。
- エ. コンプライアンスに関しては、社内のコンプライアンス部門が行うので、ロジスティクス監査では行わない。
- オ. ISOの各種マネジメントシステムを導入している場合は、ロジスティクス監査を行う必要はない。

問題14 物流サービスに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流サービスとは、物流活動において付加される価値のことであり、例えば、迅速性、正確性等である。
- イ. 物流品質は、物流サービスの一部であり、顧客の満足度、環境への貢献度等を含めることもある。
- ウ. 物流サービス管理においても、PDCAの管理サイクルを回すことが重要である。
- エ. 全ての顧客に対して均一な物流サービスを提供することにより顧客の信頼が得られ、結果的に会社の利益も増大する。
- オ. 物流センターで行う流通加工は、物流サービスの一つである。

問題15 物流サービスの改善に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 検品精度を向上させるため、WMSを導入した。
- イ. 一定時間帯の時間指定配達先を増やすため、バラ積みに変えてトラックの積載量を大きくした。
- ウ. 在庫アベイラビリティを高めるため、特定の売れ筋商品に限って保管することにした。
- エ. ピッキングミスを減らすため、毎日、下請作業者を集めて直接作業指示をするようにした。
- オ. 入庫業務の改善を図るため、調達先にASN（事前出荷案内）の導入を要請した。

問題16 物流現場における小集団活動に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流現場における小集団活動は、従業員満足の向上に貢献する。
- イ. 物流現場における小集団活動は、改善ノウハウを持った人材が行うことにより、効率的に進めることができる。
- ウ. 物流現場における小集団活動の目的は、品質管理に絞ることが肝要である。
- エ. 物流現場における小集団活動には、経営陣が積極的に関与することが望ましい。
- オ. 物流現場における小集団活動では、ドライバーは対象外である。

問題17 物流効率化法を遵守するための対策として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 配車システムの導入等を通じた配車・運行計画の適法化。
- イ. 複数荷主による物流共同化（貨物積合せ、共同配送、帰り荷確保等）。
- ウ. 荷主及び物流事業者のうち一定規模以上の特定事業者は、物流統括管理者を選任し、物流効率化への取組を実施。
- エ. トラック予約受付システムの導入や混雑時間を回避した納品日時の分散の実施。
- オ. 荷捌き場等の適正な確保による荷役作業のための環境整備。

問題18 荷主企業において、自社の物流業務を外部委託する場合の委託先企業選定に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 委託先の候補となる企業の事業内容や業務範囲等を調べ、委託内容に適合する複数の企業を選定する。
- イ. 自社の現在の物流拠点内における業務、顧客の求めるリードタイム、納品時のサービスレベル等を精査した結果を委託先候補企業へ提示する。
- ウ. 提案要求の主な内容としては、物流システム案、稼働スケジュール、費用見積りがある。
- エ. 短期間での委託先見直しを想定し、事前通知なしで取引中止が可能な委託先を優先する。
- オ. 委託先候補企業から提出された見積り・提案内容を精査し、求めた要件に最も近い企業を選定する。

問題19 物流センターの改善に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 作業生産性向上に直結するK P Iを定め、実績データを継続的に把握すれば課題解決ができる。
- イ. 物流センターの課題解決には、営業部門や発注部門との連携が必要な場合が多い。
- ウ. ロケーション管理、従業員配置は、物流センター内部で解決すべき課題である。
- エ. 在庫商品の出庫は、先入れ先出しが原則である。
- オ. 物流センター責任者は、常に作業等々の安全確保とその徹底を図らなければならない。

問題20 荷主間で物流共同化を実施する際の留意事項として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流共同化では、ドライバーの拘束時間は改善基準告示の範囲内で収まるよう検討する必要がある。
- イ. 物流共同化の目的は「高積載率化」だけであるため、当該各社は商品荷姿を統一することが望ましい。
- ウ. 物流共同化の設計・構築は、製配販の中間に位置する卸売業が単独で担うことが適切である。
- エ. サプライチェーンの全体最適は、個別最適の積み上げであるため、まずは各企業内での物流を改善し、その上で共同物流の可能性を議論すべきである。
- オ. 複数の荷主が各社の配送条件や情報システムなどの仕様は変更せず、3 P L企業に全てを委託する。

問題21 在庫管理に活用される「かんばん方式」に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 「かんばん方式」による在庫補充は、不定期定量補充方式の一つである。
- イ. 管理が簡単なため、コンピュータシステムがなくても運用できる。
- ウ. 1枚のかんばんには必要な在庫補充量を割り当て、複数枚のかんばんを用意し、かんばん単位で在庫を補充する。
- エ. 運用時の適正在庫は、かんばん1枚の割当数の設定で調整する。
- オ. 補充点方式（発注点方式）と比較すると、かんばん単位に小刻みに補充ができ、在庫を抑えられる。

問題22 需要予測に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 需要変動の要素には、曜日、季節、特売やキャンペーン、商品のライフサイクルなどがある。
- イ. 過去の偶発的な需要変動を均して需要予測をするために、相関分析を用いる。
- ウ. 特売の需要予測は、通常の需要予測方法とは別に行うのが一般的である。
- エ. 需要予測を行う場合、GDP伸び率、為替相場、失業率、金利、賃上げ率などの経済指標や景気指標を活用することもある。
- オ. 需要予測が外れた場合は在庫異常につながるため、在庫の正常範囲を決めて、異常値管理をするのがよい。

問題23 在庫鮮度分析の活用方法として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 商品・カテゴリ毎に在庫の滞留期間等から適正在庫レベルを設定する。
- イ. 一定期間入庫と出庫がない死蔵在庫は、正常在庫から分離抽出し処分を行う。
- ウ. ブルウィップ効果が生じる場合、メーカーは生産量を増やし在庫鮮度を確保する。
- エ. 在庫鮮度管理は、食品に限らずエレクトロニクス産業等でも行っている。
- オ. 余剰在庫・死蔵在庫の処分は、損益計算書や貸借対照表に影響する。

問題24 大型物流センターの設置に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 既存拠点の統廃合も含めて検討する。
- イ. BCP対策も考慮して、港湾地域に集中させることが望ましい。
- ウ. 設置場所の設定に当たっては、今後数年間の営業戦略（販売先の選別や現取引先との取引高増減等）との整合性を確認する。
- エ. 広域への輸配送を実施するセンターは、高速道路インターチェンジ近郊等での設置が望ましい。
- オ. 従来は、作業員確保の容易さが重要視されたが、自動化・ロボット化を図る大型物流センターの場合は、その要件は緩和される。

問題25 輸送モードの特徴やその選定に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 地域によって輸送状況が異なるため、地域毎に輸送モードを選定するのがよい。
- イ. 海運へのモーダルシフトを推進するため、国土交通省ではフェリー・RORO船の利用状況をホームページで開示している。
- ウ. 石油製品、セメント、石炭等のように、1回当たりの輸送量が大きく、かつ、総質量も大きい品目ほど、モーダルシフトが進んでいる。
- エ. 鉄道輸送用の31ft汎用コンテナの最大積載質量は、同12ft汎用コンテナ2基分の10tである。
- オ. 荷主が安全性の高いトラック運送事業者を選びやすくするため、安全性優良事業者を事業所単位で認定する制度として、Gマーク制度がある。

問題26 ユニットロードシステムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. J I Sで定める包装モジュールには、550mm×366mmと600mm×400mmの2種類がある。
- イ. ユニットロードとは、パレットやコンテナを利用してひと固まりのユニットにした貨物のことである。
- ウ. ユニットロードシステムで活用されるパレットやコンテナの所在地管理には、主にR F I Dが用いられている。
- エ. 一貫パレチゼーションを推進するため、鉄道コンテナ輸送ではコンテナ輸送で使用したパレットを返送するときの運賃割引制度がある。
- オ. レンタルパレットシステムとは、出荷側が持ち込んだパレットと同数・同規格のパレットを、入荷側が保管しているパレットから引き取るシステムである。

問題27 JIS Z 0150:2018で定める包装貨物の「荷扱い図記号（ケアマーク）」に規定されていないものは、次のうちどれか。

ア. 壊れもの、取扱注意



イ. 水ぬれ防止



ウ. 上方向



エ. 上積み禁止



オ. 火気厳禁



問題28 運賃・料金に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 急な注文によりトラックが足りなくなった場合には、トラックの最大積載量（標記トン数）を越すトン数の商品を積みこませる。
- イ. 運送業者・倉庫業者に対する運賃・料金の支払いについては、運送業者・倉庫業者の資本金規模により、独占禁止法の特殊指定が適用される。
- ウ. 急激な燃料価格の高騰や為替レートの変動に連動して、運賃に一時的に上乗せして課金する制度を、デリバティブという。
- エ. 営業倉庫の料金には、寄託貨物に対する火災保険料は含まれていないので、寄託者が別途、火災保険を付保しなければならない。
- オ. 量販店が納入価格や数量に応じてセンターフィーを設定する場合には、量販店がその料金を国土交通省に届け出る必要がある。

問題29 経営計画と各部門の予算に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 中期経営計画を立案する際には、各部門が達成可能な施策を併せて検討する必要がある。
- イ. 各部門の年次予算は、その部門の中長期予算と連動して作成する必要がある。
- ウ. 会社全体の年次予算は、各部門の積み上げで作成する。
- エ. 月次の物流予算は、月次の物量変動も考慮して作成する。
- オ. 物流予算策定に用いる物流量の予測値は、生産計画等から作成する。

問題30 物流ABCの導入と活用に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. アクティビティの設定に当たっては、入荷・ピッキング・梱包・出荷等のように、大きな分け方で設定した方が、活用が容易になる。
- イ. アクティビティ毎の作業時間を測定するため、測定当日は、スピーディに作業をするように、作業者に指示した。
- ウ. 人件費・施設費・梱包材料費等の投入要素（リソース）別費用の実績値は、物流ABCには不要である。
- エ. 算定されたアクティビティ単価は、物流業務が似ている他社の物流センターと比較して分析した。
- オ. ピースピッキング、ケースピッキングに分けてアクティビティを設定する場合、それぞれの作業に使用する床面積の割合に応じて、リソース別費用を配分する。

問題31 棚卸資産の評価・管理に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 顧客から返品された在庫商品に、外装の汚損などによる価値低下が判明した場合でも、返品が通常の営業活動の範囲で発生したものであれば、その評価損は特別損失となる。
- イ. 返品により価値低下が生じている在庫商品を一括で廃棄することとした場合、その廃棄損は通常の営業サイクルで発生するものではないため、一般管理費となる。
- ウ. 商品の実際の価値（時価）が、期末在庫の平均取得原価よりも下落している場合の棚卸資産評価損は、通常の販売活動を行う上で不可避免的に発生するものであるから、売上原価となる。
- エ. 商品の実際の価値（時価）が上昇している場合には、期末在庫の棚卸資産評価額の上昇に伴う利益は営業収益となる。
- オ. 盗難により、期末棚卸で大幅な在庫差異が生じた場合、その損失は原価性及び費用性がないため、営業外費用となる。

問題32 物流における設備投資の採算分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 採算分析に基づく投資判断は、投資の開始後も定期的に行うことが要求される。
- イ. 投資判断をする場合、物流コスト全体の変化を把握するためには、全ての物流コスト領域を対象として採算分析を行う必要がある。
- ウ. 採算分析では、予算期間を対象として、その全期間についてのコスト及び効果の推移を算出する。
- エ. 投資判断は、対象期間におけるキャッシュフローについて、現在の価値に置き換えて算定する。
- オ. 投資案件に適した採算分析を行うためには、採算分析の方式は常に同一の方式にする必要がある。

問題33 バーコードが使用されているラベルの利用目的や利用方法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. PD（物流）ラベルは、大手小売りの商品センター等での仕分けを円滑にするために、店舗コード（店番等）をバーコード表記している。
- イ. SCM（ SHIPPING・カートン・マーキング）ラベルは、ASN（事前出荷案内）と連動させることで検品作業の簡素化・省略を図ることができる。
- ウ. 流通BMSのラベルに登録されている情報は、PDラベルと同じである。
- エ. 荷主と物流事業者等が共通に利用できる荷札の国際規格に準拠した「STARラベル」が活用されている。
- オ. 日本における宅配便の送り状に表記されているバーコードの番号体系は、各事業者が独自に決めている。

問題34 物流企業が新たな事業分野に進出する場合に、物流管理のための情報システムの開発について検討すべきこととして最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 自社内の開発部門と新規事業部門のメンバーから専属チームを編成して情報システムの目的と必要機能について検討する。
- イ. 新たな事業の物流システムが既存事業と似ている場合、既存の情報システムに手を加えることで開発費を抑えることを検討する。
- ウ. 既存の情報システムとの連携が必要な場合は、既存の情報システム開発を行った委託先も新情報システム開発の委託先として検討する。
- エ. 新たな事業分野に向けたパッケージソフトウェアを調査し、導入を検討する。
- オ. 短期間での情報システム開発が求められる場合には、ホスティングサービスの利用を検討する。

問題35 ロジスティクス情報システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 食品や医薬品等の流通段階の追跡管理には、比較的多くの情報量が記録できるCode128、二次元シンボルやRFIDが用いられている。
- イ. ロジスティクス情報システムのサーバーは、システムの仕様変更やトラブル対応のため、物流現場に設置する必要がある。
- ウ. 荷主企業が3PL企業に物流業務を委託する際、荷主企業自ら開発したロジスティクス情報システムを利用する必要がある。
- エ. ロジスティクス情報システムとは、ASNを利用して各種の物流業務を情報システム化したものである。
- オ. ロジスティクス情報システムは、外部委託から自社所有のサーバーでの運用に回帰する傾向にある。

問題36 在庫管理システムに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 複数拠点における在庫管理は、拠点間の在庫移動量も管理する。
- イ. 食品業界において、納品先によって賞味期限の基準が異なる場合には、在庫引当は納品先別に管理する必要がある。
- ウ. 商品の特性（定番商品、特売商品、季節商品等）別に在庫回転率、品切れ率等を管理することによって、より適正な在庫管理が可能となる。
- エ. 日々の入出荷、引当可能在庫、品切れ情報等を管理する必要がある。
- オ. 在庫適正化のため、SCP（サプライチェーン・プランニング）を導入して需要予測と生産計画を同期させると、一般に生産設備の稼働率を大きく向上できる。

問題37 配車計画システムを導入する際の留意点として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ルート配送では、荷量、距離、所要時間等が巡回可能であることや、巡回に必要な道路網があること。
- イ. 配送の効率化を図るため、荷役時の貨物の積合せには、納品先の納品時間や数量の調整が可能であること。
- ウ. 配送圏域は、都道府県や市区町村毎の行政区分内で設定すること。
- エ. 人手による配車作業と比較して、配車計画システム導入の費用対効果があること。
- オ. 納品先の庭先条件や交通状況が反映できること。

問題38 国際物流におけるセキュリティ対策として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 出港24時間前の貨物事前通知制度（いわゆる24時間ルール）
- イ. なりすまし防止システム（データベースによるブラックリストのチェック）
- ウ. C-T-P-A-T（官民連携による優良事業者の活用制度）
- エ. インコタームズ（商取引に関する国際的標準解釈）
- オ. A I S（船舶自動識別装置）

問題39 NACCSに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. NACCSは、Nippon Automated Cargo And Port Consolidated System（輸出入・港湾関連情報処理システム）の略称である。
- イ. 兵器の製造につながる可能性のある特定貨物の輸出を規制する輸出貿易管理令の対象となる場合は、NACCSを利用して許可を申請することはできない。
- ウ. NACCSを利用して、損害保険会社と包括保険手続きを行うことができる。
- エ. NACCSを利用して、関税等の口座振替による領収等の銀行手続きを行うことができる。
- オ. NACCSを利用して、関連行政機関に対する船舶・航空機の入出港関連手続きを行うことができる。

問題40 世界各地に生産拠点、販売拠点を展開する製造業におけるグローバル・ロジスティクス情報システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．購買業務の集中化と購買処理システムの一元化は、世界各地の調達コスト削減に効果が見込まれる。
- イ．世界各地での輸送管理は、現地での国内トラック輸送も含め、一つのデータベースとして一元化する。
- ウ．在庫情報は各国現地法人の財務諸表に影響することから、現地法人毎のシステム内で管理し、本社は関与しない。
- エ．倉庫実行システム（WES）を世界各地で導入することにより、大きな費用対効果が見込める。
- オ．在庫適正化に向けては販売情報の一元化が望ましく、そのためには世界各地での受注業務の集中化と受注処理システムの統合化が求められる。